



養護教諭 杉浦由実さん（伊丹沢）

HOPE S
～希望の声届けます～

震災後、保健室から相馬農業高等学校飯館校の生徒を見守り続けている由実さんです。休み時間や放課後に、生徒からの悩み相談も少なくありません。「高校時代の養護教諭との出会いがきっかけで今があります。色々な悩みはあるだろうけれど、生徒には芯がぶれない大人になってほしいです」。

村の思い出といえば、「ほんの森の森」の思い出。高校生の頃にアルバイト経験もある大切な場所です。本が好きで、子どもからお年寄りまで、みんなが集まっていたあの場所が大好きです。



つくってたべよう

飯館村学校給食センター名物

「牛丼」

今年の9月30日「村民の日」に給食で出されました。

(材料 1人あたり)
・牛モモ肉 … 40 g
・玉ねぎ … 90 g
・かまぼこ … 5 g
・しらたき … 30 g

・しょうゆ …… 6 g
・砂糖 …… 2 g
・酒 …… 1 g
・みりん …… 1 g

(作り方)

- ①玉ねぎは薄切り、かまぼこは太めの千切り、牛肉としらたきは食べやすい長さに切る。
- ②熱した鍋に牛肉と調味料すべてを入れ、炒める。
- ③牛肉の色が変わったら、玉ねぎを加えて炒める。
- ④玉ねぎがしんなりしてきたら、かまぼこ・しらたきを加え、全ての材料に味がしっかり染みこむまで煮る。

ポイント

- かまぼこは、赤い部分が残るように切りましょう。
- 玉ねぎを多目にとると、甘みがでます。
- 20年以上続く、飯館村伝統の大人気給食メニューです！

情報公開

村から
課から
係から



▲楽しい交流の時間もありました



心を込めた プレゼント

10月20日、草野・飯館幼稚園（福島市飯野町）に千葉県立市川工業高等学校インテリア科卒業生が製作した木製屋内遊具「キッズ・プレイハウス」と「子どもイス」50脚が寄贈されました。同校では、東日本大震災後から被災地に「子どもイス」を贈る活動を行っており、メンバーは前日に現地で組み立てを行いました。

メンバー代表の加倉井莉央さんから「大切に使用してもらうことは、製作者の喜びです。仲良く遊んでください」とあいさつがあり、園児たちにイスが手渡されました。園児たちは、すべり台を滑ったり手作りのままごとと遊具で遊んだりして木のあたたかみを感じていました。

入札結果をお知らせします

入札日／10月15日（単位：円）

工事（業務）の番号・名称	契約額 (税込み)	請負業者	完成予定
公用車購入	1,954,800	渡辺輪業自動車整備工場	平成27年 3月中旬
スクールバス購入	21,384,000	いすゞ自動車東北(株) 福島支社 相双営業所	平成27年 2月末
クリアセンター遮水シート及び遮光マット修繕工事	1,620,000	庄司建設工業(株)	平成26年 11月末
戸籍電算機器賃借料（長期継続契約）	16,724,880	富士ゼロックスシステム サービス(株)	平成31年 11月末
固定資産税評価替えに係る標準宅地鑑定評価業務	3,240,000	(公社) 福島県不動産鑑定 士協会	平成27年 2月末
草野診療所等解体工事	14,904,000	斎藤運輸工業(株)	平成27年 3月末
財務会計システム・人事給与システム 起債管理システム機器賃借料（長期継続契約）	49,732,704	(株)福島県中央計算センター	平成31年 10月末
量水器交換業務	1,641,600	飯館村管工事組合	平成26年 12月末
被災地域農業復興総合支援事業基幹事業 農業用施設等整備工事（北塩原村内）	11,232,000	大内わら工品(株)	平成27年 3月中旬
被災地域農業復興総合支援事業基幹事業 農業用機械導入事業（北塩原村内）	5,605,200	(株)南東北クボタ 川俣営業所	平成27年 3月末
被災地域農業復興総合支援事業基幹事業 農業用機械導入事業（北海道栗山町内）	19,332,000	そらち南農業協同組合	平成27年 3月末

こころの ぽけっと

ふたりのねがいごと

パキスタンのマララさんに「ノーベル平和賞」受賞のニュースが飛び込んできました。17才という最年少の受賞、女子教育の重要性を訴えたことへの評価です。世の中にはまともに教育を受けられない子どもや、どんな底の不幸にあっても明るく頑張っている子どもなどさまざまです。

1年近く前、大阪の新聞に小学6年生の女の子が書いたエッセイが紹介され大反響を呼び、多くの人々の心を揺さぶったそうです。エッセイの題は「わたしの願い」です。

わたしは、しゃべれない、歩けない、口がうまくうごかない手も足も自分の思ったとおり うごいてくれない一番つらいのは、しゃべれないこと

神様が1日だけ魔法をかけて、しゃべれるようにしてくれたら：学校から帰る車をお母さんに「ただいまー」って言うお父さんとお兄ちゃんに電話して「早く、帰ってきて」って言う魔法がとける前に家族みんなに「おやすみ」って言うそれで、じゅうぶん

事故のため、肢体不自由となり言葉を失った12才の少女の切なる願いごとです。少女が切実に願う「しゃべれる」ということなど健康な私たちは、当たり前と考え、自覚できずむしろ不満を言っている方が多いかもしれません。私たちはどうしても「他人の幸せ」だけに比較して自分を見てしまいがちです。

一方で、マララさんのように銃撃され重体になってもひるまない17才もあり、口を利けなくとも前向きに生きている12才の方もいます。どうやら「人の幸、不幸」は人それぞれの境遇を、どう捉えるかによって決まってくるようです。

私たちの今の状況をどうとらえるかを深く考えさせられた「ノーベル平和賞」であり「わたしの願い」でした。子どもたちから学ぶことの多さに反省しきります。次代を背負う子どもたちを大切にしなければと、あらためて：

平成26年10月18日 飯館村長 菅野 典雄